一般社団法人日本シュタットベルケネットワーク
設立一周年記念日独シンポジウム

「シュタットベルケの未来 ー デジタル時代における新ビジネスモデル」

国際連合大学
エリザベス・ローズ国際会議場

2018年9月11日（火） 9:00-17:00

共　催:　ヴッパータール研究所
エコス・コンサルタント

後　援：　ドイツ連邦環境・自然保護・原子力安全省（BMU）

協　力：　日本環境省
一般社団法人イクレイ日本
ドイツ連邦共和国大使館 東京

JSWNW Japan Stadtwerke Network 一般社団法人 日本シュタットベルケネットワーク

Wuppertal Institut

ECOS

Supported by:

Federal Ministry
for the Environment, Nature Conservation
and Nuclear Safety

based on a decision of the German Bundestag

Building Partnerships for a Sustainable Infrastructure
ENVIRONMENTAL PROTECTION made in Germany

平成 29 年 8 月吉日

日本シュタットベルケ・ネットワーク設立趣意書

わが国に先立ち電力自由化と再生可能エネルギーの固定価格買取制度の導入を進めてきたドイツには、電力小売り事業や再生可能エネルギー発電事業の担い手として、シュタットベルケという事業体が存在しています。シュタットベルケは自治体出資法人ですが、その経営は民間に委ねられており、以前、わが国で見られた第三セクター等とは似て非なるものです。

シュタットベルケは、電力小売り事業や再生可能エネルギー発電事業の他、地域の配電網の管理運営事業、熱供給事業等のエネルギー事業を行うだけでなく、廃棄物処理（廃棄物発電）事業、上下水道事業、地域交通事業、公営プールの運営事業など、地域に必要な幅広いインフラサービス事業を行っています。

また、シュタットベルケは、自治体出資の民間経営事業体として、エネルギー事業等で得た収益を利用して地域の公共交通サービスや公営プールの運営などの赤字事業を自社の内部事業として取り込み、地域に必要なインフラサービスの提供を行いつつ、事業体全体としては黒字を確保し、事業体としての持続可能性を確保している点に特徴があります。単体事業としては不採算であっても、例えば、地域の公共交通サービスを自社の事業として取り込むことで、地域住民からの認知度を高め、地域に貢献する企業としてのイメージを高めることで、電力小売り事業等に好影響を与えることができます。このように、シュタットベルケは地域に密着した官民連携型のインフラサービス事業者であり、その存在感は近年、ますます高まっています。

ドイツには 1,400 程度のシュタットベルケが存在するとされており、100 年を超える歴史を有し、従業員数が 1,000 人を超える規模のシュタットベルケが存在する一方、地域の資源を有効活用して地域内に新たな事業と雇用を生み出すべく、新しく設立されるシュタットベルケも存在しています。

ドイツと比較して 20 年近くの遅れの後、わが国でも電力自由化と固定価格買取制度の導入が進んでいます。そして、多くの地方自治体において、有望な地域資源である再生可能エネルギーを有効活用するとともに、地域内の電力需要家への電力の小売り事業を地域における新しいビジネスとして取り込んでいく検討が始まりつつあります。

こうした状況を踏まえ、ドイツの先例に学びつつ、わが国特有の特徴も取り込みながら、地域における新しい事業として電力小売り事業等を設立し、同事業から得られる収益を地域が抱える様々な課題の解決に利用していく日本版シュタットベルケの創出、その経営の安定化等に資することを目指して、日本シュタットベルケ・ネットワークを設立します。

日本シュタットベルケ・ネットワークでは、電力小売り事業を中心とするエネルギー事業や地域課題を解決するためのソーシャル事業のための事業計画の策定、事業計画に基づく事業体の設立及び運営等を支援し、全国各地に日本型のシュタットベルケを設立し、もって、地域の活性化に貢献することを目指します。

ドイツのシュタットベルケは、自治体の公益法人のモデルとして国際的に注目されています。

シュタットベルケは、**地域経済の発展**や地域に根付いている**分散型エネルギーシステム**への転換に向かって中心的な役割を担っているからです。

一般社団法人日本シュタットベルケネットワーク（JSWNW）設立1周年を記念し、この度**「日独シュタットベルケシンポジウム」**を開催いたします。

当シンポジウムでは、日本とドイツの**エキスパート**をお迎えし、 地域のエネルギー供給の可能性と**将来のビジネスモデル**について発表していただくとともに、「**デジタル化**」、「**再生可能エネルギー利用**」、「**セクターカップリング**」等々の活用でシュタットベルケ・モデルをいかに日本に取り入れていけるかについても協議いたします。

日本シュタッドベルケネットワーク設立の記者会見 （2017年9月8日）

プログラム

9:00-9:20　**挨拶**
環境省地球環境局長
森下　哲
ドイツ連邦環境省、環境・エネルギー・都市における国際協力、
OECDおよび OECD各国連携課
ハラルド　ナイツェル

パート 1: シュタットベルケとは？

9:20-9:40　**基調講演:**
「エネルギー転換」における分散型アクターの必要性
ヘンニッケコンサルタント　代表　ペーター　ヘンニッケ

9:40-10:00　**プレゼンテーション:**
ドイツにおけるシュタットベルケの歴史と現状
自治体企業連合（VKU）電力市場デザイン・気象保護専門分野
リーダー　アンニカ　ウーレマン

10:00-10:20　**プレゼンテーション:**
日本におけるシュタットベルケの現状
立命館大学経営学部　教授/日本シュタットベルケネットワーク
代表理事　ラウパッハ・スミヤ　ヨーク

10:20-10:30　**質疑応答**

10:30-10:50　**休憩**

パート 2: シュタットベルケを通じての地域活性化

10:50-11:10　**ドイツにおけるシュタットベルケを通じての地域価値創造の効果**
ヴッパータール研究所　エネルギー交通気象保護研究グループ
プロジェクトリーダー　オリバー　ワグナー

11:10-11:30　**小田原市における地域活性化への貢献 ― 湘南電力の事例**
湘南電力　代表取締役社長　原 正樹

11:30-11:50　**自治体にとってのシュタットベルケ設立のメリット ―**
シュタットベルケ　テクレンブルガーランドの事例
シュタットベルケ　オスナブリュック SWO ネッツ社
代表取締役　ハインツ　ヴェルナー　ホルシャー

11:50- 12:20　**パネルディスカッション:**
シュタットベルケを通じての地域活性化
インプット: **小規模自治体にとって可能な参入業務**
アルハイム市　市長　ゲオルグ　リュッドケ
司会: ラウパッハ・スミヤ　ヨーク、立命館大学経営学部教授
パネリスト:

- オリバー　ワグナー
- 原 正樹
- ハインツ　ヴェルナー　ホルシャー
- ルーディガー　シュヴェル（ヘッセン州経済　エネルギー
交通　開発省　地域エネルギーコンセプト課　課長）
- ゲオルグ　リュッドケ

12:20-13:00　**昼食休憩**

プログラム

パート 3: シュタットベルケの新事業モデル

事例プレゼンテーション:

13:00-13:20 **24 時間自動エネルギー取引とポートフォリオ　マネジメント**
トリアネル社　企業コミュニケーション　エネルギー政策部門
リーダー　トルステン　ビショッフ

13:20-13:40 **再生可能エネルギーを基本にした地域エネルギーマネジメント**
ローカルエナジー株式会社　常務取締役　森 真樹

13:40-14:00 **地域における再生可能エネルギー利用の手段としてのブロックチェーン　テクノロジー**
ヴッパーターラー　シュタットベルケ
企業戦略・開発リーダー　ショーレン　ヒューゲル

14:00-14:20 **地域の再エネ資源を最大限活用する多層的な地域新電力会社向けエネルギーマネジメントシステム（EMS）について**
みやまスマートエネルギー(株) 電力事業部 執行役員 白岩 紀人

14:20-14:35 **トータルなサービス提供会社としてのシュタットベルケ**
ライプチッヒ　シュタットベルケ　他企業連携部門リーダー
カイ-ウヴェ・ブリヒシュミット

14:35- 14:50 **大阪市の下水処理場における消化ガス発電事業**
大阪市建設局下水道河川部水環境課長　鈴木　宏昌

14:50‐15:05 **廃棄物のエネルギー利用**
ハンブルグ清掃公社　イノベーション・研究部門
ブリッタ　ペターズ

15:05- 15:45 **パネルディスカッション:**
シュタットベルケの新事業モデル　チャンスとキーテクノロジー、成功要因
司会:　村岡 元司、株式会社 NTT データ経営研究所
社会基盤事業本部 本部長パートナー
パネリスト:
- トルステン　ビショッフ
- 白岩 紀人
- 鈴木　宏昌.
- カイ-ウヴェ・ブリヒシュミット
- 森 真樹
- ショーレン　ヒューゲル
- ブリッタ　ペターズ

休憩

パート 4: 日本におけるシュタットベルケ展開の推進

16:00-16:50 **パネルディスカッション:**
日本におけるシュタットベルケ展開の推進
司会:　金森　絵里、立命館大学経営学部教授
パネリス:
- 川又孝太郎（環境省）
- 杉山範子（名古屋大学）
- 山下紀明（ISEP）
- ペーター　ヘンニッケ
- アンニカ　ウーレマン
- オリバー　ワーグナー

16:50-17:00 **閉会の辞**
- ドイツ連邦環境省　ハラルド　ナイツェル
- 環境省大臣官房　環境計画課長　川又 孝太郎

登壇者の紹介

パート1

ペーター・ヘンニッケ
ヘンニッケコンサルタント　代表
世界で活躍するヴッパタール気候・環境・エネルギー研究所元所長。
日独エネルギー転換評議会(GJETC)創設者の一人

アンニカ　ウーレマン
自治体企業連合(VKU)電力市場デザイン・気象保護専門分野　リーダー
ドイツのシュタットベルケを代表する業界組織の自治体企業連合会(VKU)。
1450社の会員。シュタットベルケの構築と運営に関して実践面での幅広いノウハウを有している。

ラウパッハ・スミヤ　ヨーク
立命館大学経営学部　教授　/　日本シュタットベルケネットワーク　代表理事

パート2

オリバー　ワグナー
ヴッパータール研究所　エネルギー交通気象保護研究グループ
プロジェクトリーダー
エネルギー供給やエネルギー転換における再公社化の分野でのエキスパート

原 正樹
湘南電力　代表取締役社長
小田原市の地元企業共同出資で設立された地域エネルギー会社。小田原でつくったご当地電気を小田原に届ける。

ハインツ　ヴェルナー　ホルシャー
シュタットベルケ　オスナブリュック SWOネッツ社　代表取締役
幅広い業務を展開する典型的なドイツ中規模都市(人口16万人)であるオスナブリュック市のシュタットベルケ。再生可能エネルギーの利用を市民に呼びかけている(ソーラーマッピング)。小田原市の連携パートナー。 再生可能エネルギーに重点を置いて小規模自治体の連携で新たに設立したテクレンブルガー・ランド地域のシュタットベルケパートナー。

ゲオルグ　リュッドケ
アルハイム市　市長
ドイツのSustainability賞を最優勝者として受賞した人口5,100人の町アルハイム

ルーディガー　シュヴェル
ヘッセン州経済　エネルギー　交通　開発省　地域エネルギーコンセプト課　課長
長年に渡ってドイツのエネルギー転換や再生可能エネルギーを積極的に取り組んでいるヘッセン州。人口6百20万人。フランクフルト市やライン・マイン地域に集中している工業地帯でドイツの金融・産業・経済力を代表する

登壇者の紹介（つづき）

パート3

トルステン　ビショッフ
トリアネル社　企業コミュニケーション　エネルギー政策部門　リーダー
電力の共同調達から始まった、エネルギートレーディング、エネルギーマネジメントや発電所の運営、エネルギーサービス部門において、シュタットベルケ間の革新的な連携を図り成功を収めているトリアネル社

森 真樹
ローカルエナジー株式会社　常務取締役
自立している地域経済を実現するために鳥取県の米子市で米子市・境港市と地元企業5社の共同出資で設立され、急成長している地域エネルギー企業。

ショーレン　ヒューゲル
ヴッパーターラー　シュタットベルケ　企業戦略・開発リーダー
ヴッパタール市（人口35万人）の革新的な自治体で社会インフラ・サービス部門全体を請負うヴッパターラー・シュタットベルケ。

白岩 紀人
みやまスマートエネルギー株式会社 電力事業部 執行役員
自治体による公共エネルギーサービスを通じて様々な地域課題の解決を目指す、2015年に福岡県のみやま市で設立された地域新電力会社。見守りサービスのような地域独自の生活支援サービスや革新的なエネルギーマネジメントを取り組んでいることで全国に注目されている。

カイ-ウヴェ・ブリヒシュミット
ライプチッヒ　シュタットベルケ　他企業連携部門リーダー
効率的で持続可能なエネルギー創出の構造によって地域の価値創造を実現している旧東ドイツの工業都市ライプチヒ市（人口55万人）のシュタットベルケ・ライプチヒ。

鈴木　宏昌
大阪市建設局下水道河川部水環境課　課長
セクターカプリングの代表的な事例として、大阪市の下水処理場における消化ガス発電事業は全国に注目される。

ブリッタ　ペターズ
ハンブルグ清掃公社　イノベーション・研究部門
エネルギー転換を積極的に取り組んでいる、ドイツの2番目に大きい都市ハンブルグ（人口1百80万人）。セクターカプリングの代表的な事例として廃棄物のエネルギー利用を紹介。

登壇者の紹介（つづき）

パート4

川又孝太郎
環境省大臣官房　環境計画課長
2015年から三年間にわたって在ドイツ連邦共和国日本国大使館参事官として日独環境省間の低炭素技術協力の共同声明で合意された日独自治体連携プロジェクトなどの担当。

杉山範子
名古屋大学　大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター
特任准教授
欧州委員会の委託事業として名古屋大学が「Global Covenant of Mayors（世界首長誓約）」の日本事務局担当

山下紀明
環境エネルギー政策研究所 主任研究員
ドイツのベルリン自由大学環境政策研究センター博士課程に在籍し、大都市の自然エネルギー政策の比較研究を行う。

ペーター・ヘンニッケ
ヘンニッケコンサルタント　代表
世界で活躍するヴッパタール気候・環境・エネルギー研究所元所長。
日独エネルギー転換評議会（GJETC）創設者の一人

アンニカ　ウーレマン
自治体企業連合（VKU）電力市場デザイン・気象保護専門分野　リーダー
ドイツのシュタットベルケを代表する業界組織の自治体企業連合会（VKU）。1450社の会員。シュタットベルケの構築と運営に関して実践面での幅広いノウハウを有している。

オリバー　ワグナー
ヴッパータール研究所　エネルギー交通気象保護研究グループ
プロジェクトリーダー
エネルギー供給やエネルギー転換における再公社化の分野でのエキスパート

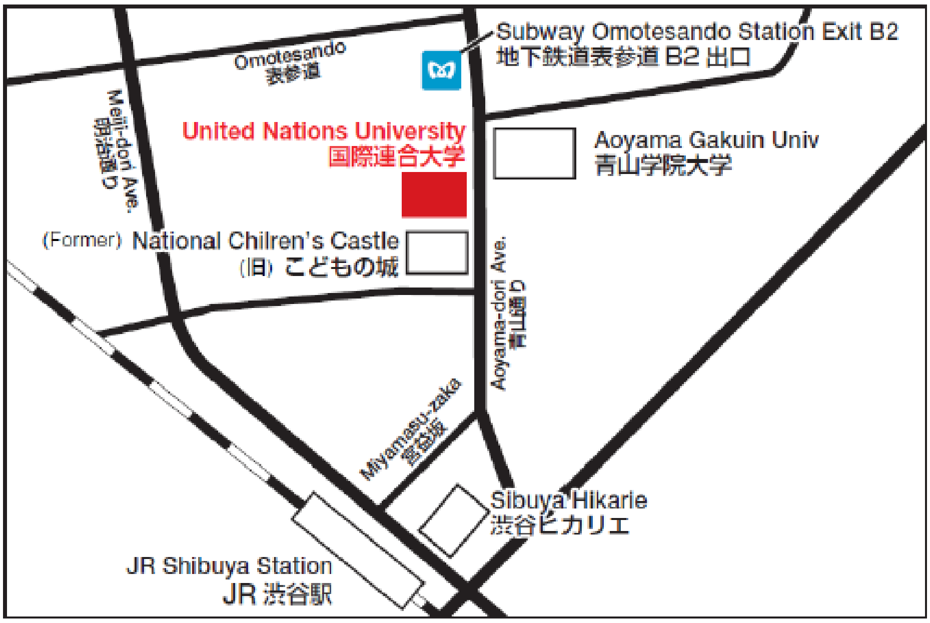
日本とドイツの政府関係者

ハラルド　ナイツェル
ドイツ連邦環境省、環境・エネルギー・都市における国際協力、OECDおよび OECD各国連携課

森下　哲
環境省　地球環境局長

会場

国連大学5階　エリザベス・ローズ国際会議場
〒150-8925東京都渋谷区神宮前5-53-70



お問い合わせ
日本シュタットベルケネットワーク事務局
担当: 益田、野口 TEL: 03-3252-1717
Email: jimukyoku@jswnw.jp

JSWNW
Japan Stadtwerke Network
一般社団法人 日本シュタットベルケネットワーク